

令和元年6月20日現在

機関番号：12603

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2018

課題番号：26770137

研究課題名(和文) 東西方言から見たチベット語の基層の研究

研究課題名(英文) Study of Tibetan Language Substratum from the Perspective of its Eastern and Western Dialects

研究代表者

海老原 志穂 (Ebihara, Shiho)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・研究員

研究者番号：30511266

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、まず、チベット語東西方言の現地調査を行い、これらの方言に関する音韻、文法の記述を進め、論文(名詞句、使役、証拠性、民俗語彙、複文、ことわざの形式等)、文法書、言語教材として公表した。これらの現地で得られたデータと二次資料を用いて言語地図を作成し、語彙とチベット語に特有の文法現象についての形式の分布と各形式の歴史的な変遷や、東西方言の共通性について考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で行った、チベット語の東西方言の音韻、文法の記述は、未記述方言に関する言語学的基礎データとして、類型論をはじめとする言語学の諸分野に寄与する。共時的なチベット語の各方言と、各時代の文献を用いた比較言語学的な研究は、チベット語学のみならず、言語変化のモデルを提示するものとして一般言語学にも示唆を与えるものである。

学術論文、文法書の出版のみならず、研究成果の現地還元を目指し、チベット語言語教材として、絵合せカルタ、及び、絵本の作成も行った。今後はこれらの教材の活用・改善も継続的に行っていきたい。

研究成果の概要(英文)：This study began with fieldworks of the eastern and western dialects of the Tibetan language and a description of its phonemes and grammar. These data were used to produce papers (concerning the use of noun phrase, causative expression, and evidentiality), a grammar book, and linguistic materials for education. Data from the fieldworks and secondary source material were used to make language maps considering the distribution of each form, its historical development, and commonalities between the eastern and western dialects.

研究分野：記述言語学

キーワード：記述言語学 地理言語学 比較言語学 チベット語方言学 フィールドワーク 危機言語(方言) 中国 インド

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

世界的に見ると、チベット語研究は、1950年代から亡命チベット人を対象とした中央チベット語の調査を中心に進められ、外国人の中国入域が可能となった1980年代以降はその他の地域のチベット語方言への関心も高まってきた。中央チベット語は改新が進んでおり、チベット書写語と発音の乖離が激しい。一方、アムド方言は、チベット書写語に反映された古チベット語との対応関係がみられるなど、チベット語の古態を残すものとして注目されてきた。しかしながら、その詳細な文法記述は一部の下位方言をのぞいては進んでいなかった。

さらに、アムド方言と同様に古チベット語との対応関係がみられる西部古方言にも対応がみられるものの、その共通性については比較研究が十分行われていない。

2. 研究の目的

研究代表者は、2003年から現在までアムド方言の記述的な研究を行ってきた。チャプチャ、ギャイ、ホワリなどアムド方言の複数の下位方言の全体像を明らかにしてきた。さらに、チベット語ひいてはチベット・ビルマ系諸語におけるアムド方言の位置づけについても研究を進めており、成果をあげてきた。これらの記述研究及び比較言語学的な研究を行う中で、アムド方言に特有の現象が西部古方言にも共有されている事実に興味を持ち、2013年より西部古方言に関する現地調査も開始した。その結果、先行研究では指摘されていない東西方言の共通点(接辞・接語の音韻交替、代名詞の除外・包括形の区別、証拠性を表す形式 *snang* など)を発見できた。以上の経緯により、チベット語東西方言をより体系的に比較するという発想を得た。

チベット語圏の東北部(アムド)及び西部で話される方言が中央方言や南部方言にはみられない古い言語特徴を有することは以前より指摘されてきた。しかしながら、その具体的検証は部分的にしか行われてこなかった。本研究では研究代表者がこれまで記述を行ってきたアムド方言のデータを用い、音韻特徴や各文法項目について、西部方言のデータ(既存の文法書と自身の現地調査で得られたデータ)やチベット書写語との比較を行い、チベット語の基層(Pre-Tibetan)の一端を明らかにすることを目的とした。本研究により、チベット語方言の共時的な記述が進み、チベット語の通時的な変遷が解明されることも視野に入っている。

3. 研究の方法

研究目的で述べた、西部古方言の複数の下位方言の記述、東西方言とチベット書写語との比較、を達成するため、以下の手順で研究を進めた。

- a)アムド方言、西部古方言(バルティ、ラダック下位方言)の現地調査と言語記述
- b)データの電子化
- c)東西方言及びチベット書写語のデータ分析・比較

研究方法としては、a)に関しては、フィールドワーク(現地調査)における聞き取り調査を行った。b), c)に関しては、すでに行ったアムド方言の記述に加え、a)の成果及び既存の文法書、チベット書写語のデータを電子化し、語彙表、文法調査表の形で一覧化することによって行った。

4. 研究成果

本研究では、アムド方言、および、西部古方言（バルティ、ラダック下位方言）の現地調査を行い、音韻、文法の記述を進め、論文（名詞句、使役、証拠性、民俗語彙、複文、ことわざの形式等）、文法書（『アムド・チベット語文法』）、言語教材（総合セカルタおよび、絵本）として公表した。文法書は、これまでのアムド方言に関する研究の蓄積の現段階における集大成となる。特に、従来、記述が不十分であった、統語的特徴の他、昨今、注目を集めている証拠性（エヴィデンシャルティ）やウチ・ソトと呼ばれる認識的モダリティの複雑な体系にも着目し、最新の研究成果を取り入れながら、自身が書き起こした談話データ、参与観察、聞き出し調査を駆使して分析を行い、全体像をまとめた。言語教材は、研究成果の現地還元を目的で作成し、今後はこれらの教材の活用・改善も継続的に行っていく。

これらの現地で得られたデータと二次資料を用いて言語地図を作成し、語彙とチベット語に特有の文法現象についての形式の分布と各形式の歴史的な変遷や、東西方言の共通性について考察した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 13 件）

海老原志穂「アムド・チベット語の使役」『シナ＝チベット系諸言語の文法現象 2 使役の諸相』査読有、2019 年、1-14

Ebihara, Shiho. Linguistic features of Tibetan proverbs with a focus on Amdo. Journal of Chiba University Eurasian Society、査読無、Vol. 20、2018 年、47-70

海老原志穂「アムド・チベット語におけるヤクの呼び分け—青海省ツェコ県の事例を中心に—」『チベット・ヒマラヤ文明の歴史的展開』査読有、2018 年、381-400

Ebihara, Shiho. Amdo Tibetan. Levels in Clause Linkage. 査読有、2018 年、451-484

Ebihara, Shiho. Evidentiality of the Tibetan verb snang. Evidential Systems of Tibetan Languages、査読有、2017 年、41-60

海老原志穂「ヤクの名は。」『フィールドプラス』査読無、17 号、2017 年、6-7

Ebihara, Shiho, Kazue Iwasa, Keita Kurabe, Satoko Shirai, Hiroyuki Suzuki, and Ikuko Matsuse. Milk: Tibeto-Burman. Studies in Asian Geolinguistics. 査読無、Vol. 3、2016 年、14-17

海老原志穂「チベット人はヤクをどのように認識しているのか？」『チベット文学と映画制作の現在 SERNYA』査読無、第 3 巻、2016 年、12-18

海老原志穂「アムド・チベット語の名詞句構造」『シナ＝チベット系諸言語の文法現象 1 名詞句の構造』査読有、2016 年、3-13

Ebihara, Shiho. Logophoric Pronouns in Amdo Tibetan. Shigen: Tokyo University of Foreign Studies Descriptive Papers、査読有、10 号、2014 年、3-12

海老原志穂「最西端のチベット語を求めてバルティスタンへ」『仏教通信』査読無、37 号、2014 年、34-51

Ebihara, Shiho. Geographical Distribution of Inclusive-Exclusive Pronouns in Tibetan Papers from the Second International Conference on Asian Geolinguistics、査読有、2014 年、126-135

海老原志穂・星泉「小説家の描く現代チベット：アムド出身の二人の作家、タクブンジャとペマ・ツェテン」『日本西蔵学会々報』査読有、60号、2014年、135-148

〔学会発表〕（計12件）

Ebihara, Shiho. Reconsideration on Tibetan word list described by Nikolai Prejevalsky. Workshop on Silk Road Languages from Chang'an to Istanbul、2018年

海老原志穂「チベット牧畜文化辞典の活用・応用の事例」第66回日本チベット学会（招待講演）、2018年

海老原志穂「ヤクは宝物」国際シンポジウム「チベット牧畜民の『今』を記録する」、2017年

別所裕介・海老原志穂「青海チベット牧畜社会の変化とイノベーション - 日本のチベット研究者ができること - 」第64回日本チベット学会ワークショップ、2016年

Ebihara, Shiho. The Richness of Tibetan Pastoral Vocabulary and its Loss. The 14th International Seminar for Tibetan Studies、2016年

Ebihara, Shiho. Milk and Non-milk Cultures, from the View Point of Geolinguistics. The 3rd International Conference of Asian Geolinguistic、2016年

Ebihara, Shiho. Richness of Tibetan Nomadic Vocabulary and its Loss. 14th International Association for Tibetan Studies、2016年

Ebihara, Shiho. How Tibetan People Cognize Yaks —A Study on Lexicons for cognizing Yaks in Amdo Tibet. 4th International Seminar of Young Tibetologists、2015年

Ebihara, Shiho. Tibetan Mobility and Language Change: Focusing on the Formation of the Refugee Common Dialect in Tibetan. Fieldnet Lounge: Workshop Tibetan Mobility: Transnationality, Locality and Agency、2014年

海老原志穂「チベット語東西方言における言語特徴の比較」日本言語学会第149回大会、2014年

Ebihara, Shiho. Snang as an Evidential Verb. SEALS 24、2014年

Ebihara, Shiho. Geographical Distribution of Inclusive-Exclusive Pronouns in Tibetan. ICAG-2、2014年

〔図書〕（計8件）

海老原志穂、ひつじ書房、『アムド・チベット語文法』、2019年、375頁

星泉、海老原志穂他（編）、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、『チベット牧畜文化辞典』（パイロット版）、2018年、399頁

星泉・海老原志穂他（編）、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、『チベット文学と映画制作の現在 SERNYA』Vol. 5、2018年、208頁

ツェラン・トンドゥブ（著）、海老原志穂・大川謙作・星泉・三浦順子（訳）、勉誠出版、『闘うチベット文学 黒狐の谷』、2017年、412頁

星泉・海老原志穂他（編）、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、『チベット文学と映画制作の現在 SERNYA』Vol. 4、2017年、176頁

星泉・海老原志穂他（編）、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、『チベット文学と映画制作の現在 SERNYA』Vol. 3、2016年、174頁

星泉・海老原志穂（編）、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、『チベット文学と映画制作の現在 SERNYA』Vol. 2、2015年、152頁

タクブンジャ(著)、海老原志穂・大川謙作・星泉・三浦順子(訳)、東京外国語大学出版会、『ハバ犬を育てる話 (物語の島 アジア)』、2015年、291頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。